小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

三豊市立詫間小学校

関連項目：教育活動プラン①、②

評価カードを通して児童のよさを認め・意欲を高める

目的

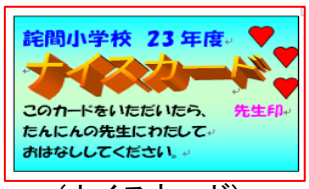
本校では、児童自身に自信を持たせたり、相互に良さを認め高め合ったりすることを大切にした教育活動を行ってきました。本年度は、児童への評価の在り方を見直し、先ず教職員から、よい行いをしている児童の行動を認め評価する活動に取り組むことにしました。

内容

● 「ナイスカード（評価カード）」の作成

学校長の「一隅を照らす教師に　子どもたちのよさや可能性を伸ばし、子どもたち一人一人がいきいきとかがやく学校」の指導のもと、学校生活の様々な場面でよい行いをしている児童、人や学校のためにがんばっている児童に対して、教職員がそのよさを認め広げることをめざして、「ナイスカード」を作成した。

また、この「ナイスカード」の取り組みを通して、平素から教職員自身が、児童のよさを見取る力をつけたり、児童を多角的に捉える習慣をつけたりすることをめざした。



（ナイスカード）

● 教職員による評価と家庭との連携

教職員が、よい行いをしている児童に対して、「ナイスカード」を渡す場合は、事前に先生の印を押しておき、その場でよい行いの内容を話したうえで、カードを渡すようにしている。

また、児童には、カードをもらった理由を担任に話すようにさせている。実際に、カードをもらう児童の中には、行動面で課題をもっていたり目立たない存在であったりする場合があり、学級担任からの称賛の言葉が承認された満足感を高めることになる。

さらに、そのようにもらった「ナイスカード」を、連絡帳に貼っておき、家庭に帰り保護者に話すようにさせている。このような評価のサイクルを工夫することで、児童のよさを、前向きに捉えることができ、個々の児童の自尊感情を高めることをねらっている。

（教職員よりナイスカード）

● お互いのよさを児童同士が認め合う活動の工夫

互いのよさを認める行為を児童同士の間でも広げるために、生活委員会が「あいさつカード」を作成し、正門等で元気にあいさつができた児童に渡すようにしている。このように、生活の良習慣づくりとして、各委員会で児童の頑張りを評価しているものとして、「トイレのスリッパの整頓」や「自主マラソン参加」などがあり、頑張っている児童や学級を昼の放送で紹介するようにしている。

（生活委員よりあいさつカード）

● 児童のよさを見取る目を地域に広げる「グッドガード」

夏休みに開催した学校評議委員会では、「ナイスカード」の取り組みが評価され、児童のよさを見取る取組を地域に広げてはどうかとの意見が出された。そこで、交通指導員の方にお願いし、登校の際にあいさつが良い班に、「グッドカード」を渡すようにした。

成果

このような「ナイスカード」の取り組みは、先ず教職員自身がよさを認めようと児童の多面的な理解を深めるきっかけとなった。また、児童へ行った詫間小アンケートでも、昨年に比べ「意欲」「学校が好き」の項目は３ポイント（%の比較）以上も向上した。ただ、「自尊感情」の項目は、１ポイントの増加にとどまっている。今後は、個々の児童への評価を、学校生活全般に広げ、タイムリーな評価を心がけることで、自分も友だちも良い方向に変わろうとする意識を高めていきたい。